

実践報告

肯定感を育て認め合う集団づくりを目指して —看図アプローチ協同学習による授業実践—

茅野徑子¹⁾

キーワード：看図アプローチ・協同学習・自己開示・肯定感・きゅうちゃん

概 要

授業を通じて、「個」と「集団」双方を認め合える学級づくりを目指す授業実践を行った。授業構成の原理として協同学習の強力なツールとなる「看図アプローチ」を活用した。授業は、3 時限で 1 ユニットとした。「3 年間の思い出」をテーマとし、全国看図アプローチ研究会のオリジナルキャラクター「きゅうちゃん」を活用した作品制作を行わせた。「きゅうちゃん」を媒介させることにより、生徒たちは作品を制作するだけでなく「集団の中の自分」に焦点をあて、自分自身や仲間へのメッセージを発信していた。さらに、教師たちも教科や学年を超えて積極的に協同していくことで、肯定感を育て認め合う集団づくりをより促進していける。そのような授業実践を報告する。

I. 目的と生徒の状況

本研究は、「面接力・発想力・想像力・創造力・作文力・仲間力…をつけて、これまでの自分を自己肯定し、受験に向かっていくエネルギーをチャージしよう！」というテーマを実現するための授業実践である。

筆者は、常日頃、「強いチームをつくるためには、強い『個』をつくる必要がある。」と生徒たちに言っている。中学校は「集団」での生活が中心となるが、「ひとり」の時間を有意義に過ごすこと、やるべきことを把握して一心に取り組むこともとても大切である。

SNS 等の普及により、大人だけでなく生徒たちもまた生身の人間と接する機会が減りつつある。「不安の時代」を生きる生徒たちは「ひとり」になることに大きな不安を抱いている。授業中すぐにうしろを向いたり、私語を始めたり、仲良しかたまりとうとする傾向がある。そのような状況の中で「人任せにしない」「自分が動くしかない」「自

分がやらなければ何も変わらないし先に進めない」ということを自覚させる必要がある。もちろん、仲間と時間を共有し、力を合わせて何かをつくり出すことのすばらしさも体験させたい。3 年間共に学び生活してきた仲間（集団）を認め、さらに自分（個）を肯定することができれば、前へ進むエネルギーを生み出していくことができるのではないだろうか。

生徒たちは人間関係づくりがあまり上手ではない。そのため公の場（授業）で人間関係づくりを学ぶということは大変貴重な機会になる。協同学習の強力なツールとなる「看図アプローチ」を活用した授業を通じて、「個」と「集団」双方を認め合える学級づくりをしていきたい。

II. 授業の実際

授業者・学習者等

授業者は本稿筆者茅野、学習者は A 中学校の 3 年生 6 クラス（193 名在籍のうち 188 名）である。

1) 松戸市立小金南中学校

教材等

ビジュアルテキストは石田が制作した「きゅうちゃん」シリーズから選定した。本実践では、石田他（2019, pp.6-8）に掲載されている「きゅうちゃん」から生徒たちがとくに使いやすいと思われるものを選んだ。これをA4版2枚にまとめ（図1・図2）、各生徒に配付した。

絵の付け足し・描き変え・色塗り等も自由に行わせた。さらに「きゅうちゃん」を使用しないこともよしとした。また、文字の書き方・形（体裁）・題名も自由とし、できるだけ制限を設けず伸び伸びと取り組めるようにした。自由の中で「選択」「決定」していく作業も楽しめるよう考慮した。

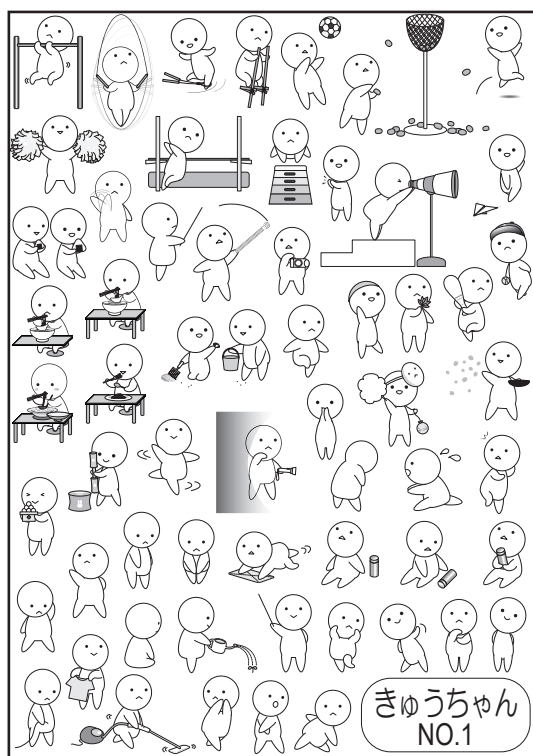


図 1



図 2

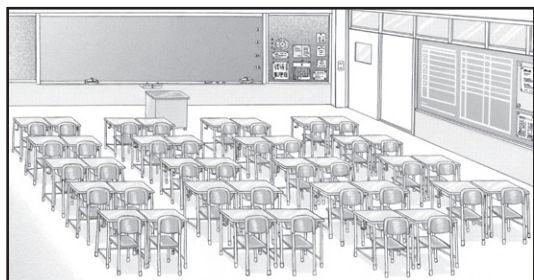


図 3

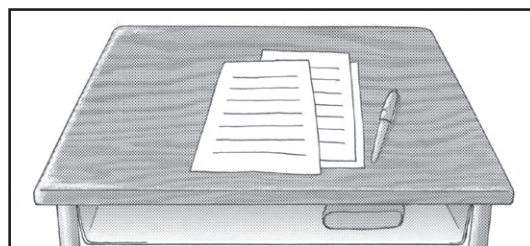


図 4

さらに「教室」(図3)と「机」(図4)絵図もワークシートに配置し活用できるようにした(図5参照)。生徒個々の思い出の落しどころとして、学校・学年・学級を強くイメージできるようにするという思いからである。なお、図3・図4の絵図も、全国看图アプローチ研究会専属アートスタッフ石田ゆきが制作したものである。

実施時期

2019年12月初旬～中旬、高校受験を目前にした2学期最後の時期に実施した。

実施計画

45分授業×3コマを1ユニットとして実施した。(表1参照)

表 1 1 ユニットの構成

時間配当		実施手順・留意点等
1 コマ目 (45 分)		・思い出の名場面の項目を書き出す ・5つの項目に関して説明を書く ・名場面をランキングする ・下書き用紙にラフスケッチ（書き込み例呈示／図 5） ・題名を考える ・使用する「きゅうちゃん」に印をつける（まだカットしない）
2 コマ目 (45 分)		・清書用紙に書き込み／貼り込み ・シャープペンでも濃く書いてあれば OK とする ・「きゅうちゃん」は体のラインを残して切る
3 コマ目	(30 分)	・仕上げ
	(15 分)	・読み合って相互にメッセージを書く ・自分のふりかえりを書く

（※これらの内容は授業の進行に応じて板書し，見通しがもてるようにした。生徒たちは何をすべきかがはっきりして意欲をもって取り組めたようであった。）

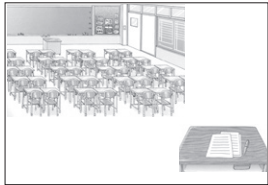
④	題名 ○○中学校 ○年○組○番 氏名
⑤	①
	②
共に過ごし、様々な活動で関わってきた仲間・自分へのメッセージ	③

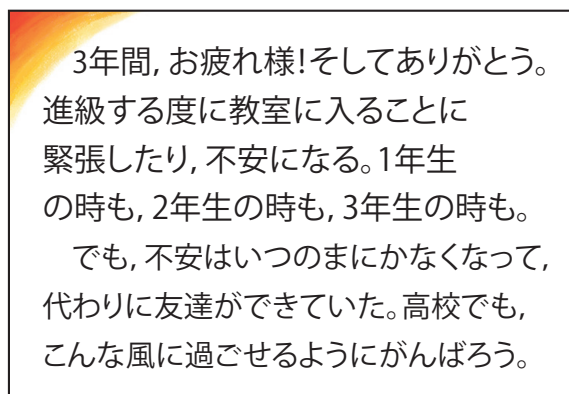
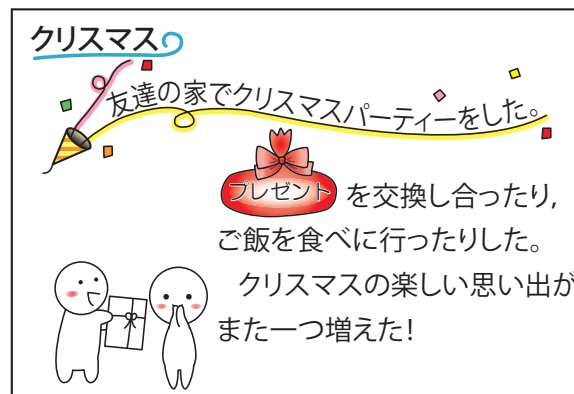
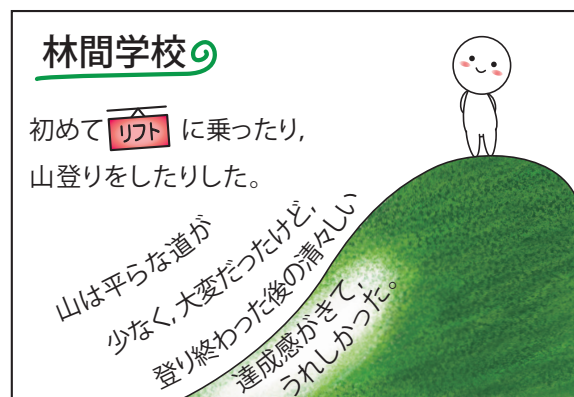
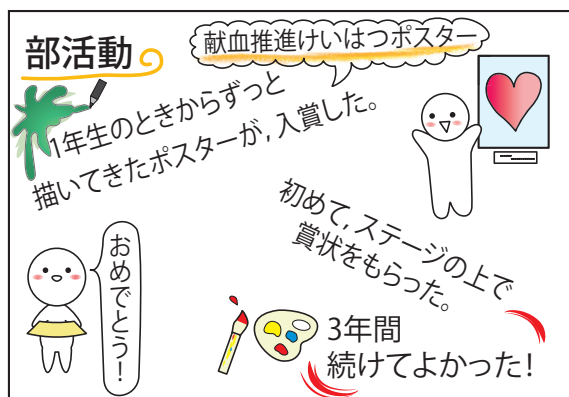
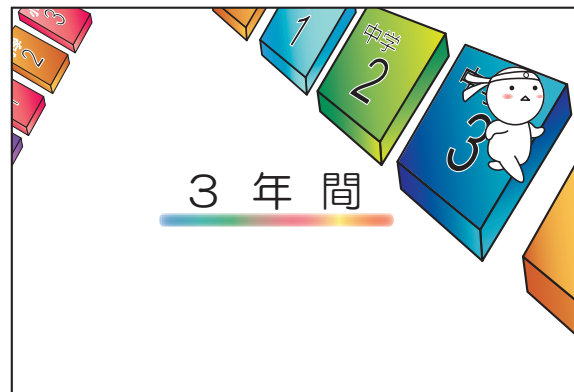
図 5 ワークシート (A3 版)

Ⅲ. 授業結果

Ⅲ－１．完成した作品

本実践で産出された作品を 2 例載せておく。（編集委員会注；作品制作にはカラーペンや色鉛筆等が使われており，スキャン画像では十分な印刷表現ができない。鮮明な印刷表現とするため，本研究会専属アートスタッフ石田ゆきが，生徒のオリジナル作品をもとに「Photoshop」「Illustrator」によって画像を編集し直した。また，生徒作品では手書き文字が用いられている。これも活字化した。活字化の作業も石田が行った。）

学習者 A の作品



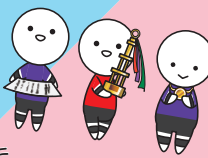
学習者 B の作品

～ばれば7人の絆～

バレー部はどの部活よりも仲良しで、応援されるチームを目指し、叶えることが出来ました。

7人みんなの力で、たくさんの賞を取り、優勝し、ビーチバレーでは、全国大会に出場するなど、最後の最後までみんなで笑って、泣いて、汗を流す

「1人の強い選手である前に1人の良い人間であれ」ことが出来ました☆



人との出会い ♥

—世界はまだまだ広い—





～〇〇先生との1年間～

1年間たくさん怒られたけど、今思うと、中学校に入学し、うかれていた自分を指導してくれた先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

〇〇先生に出会えて凄く嬉しいし、今の自分がいるのは先生のおかげだと思っています。

さよならエレジーを弾いてくれた♪



～バレーボール部～

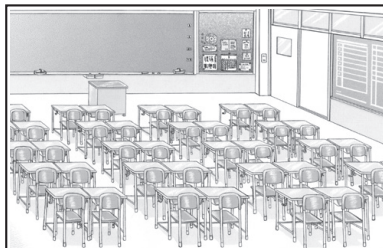
良い先生・良い仲間に出会い、3年間部長という役割とバレーから逃げることなく充実した活動を送ることができました。

たくさん泣いて、笑って、汗かいたあの日は自分にとって絶対忘れられない最高の思い出になりました。




卒業式当日、教室に入ると昨日みんなに書いた手紙が机の上に置いてあった。1番上には、2年間お世話になった〇〇先生からの手紙だった。

まだ式は始まっていないのに、最後の教室でみんなからの手紙を読み、目から涙が…あの大好きだった教室の雰囲気はもう無い。別れは悲しいが、新しいことの出会いが待っている。




～最後の体育祭～

全校生徒に“ありがとう”と伝えたい。

白組の女団長で“良かった”と心から思えた

あの5日間は幸せで大切な宝物

「さまざまなことをみんなで乗り越えた」

協力してくれてありがとう





たくさんの方々3年間ありがとうございました！

色々な人と出会い、色々な体験をし、自分にとって人生の一步を踏み出すことの出来た3年間でした。

みんなに出会えたことの奇跡、友達の大切さを、改めて実感することが出来ました！

様々な人と関わってきて、得たものを今後に活かしたいと思います。

うるさくて、たくさん迷惑をかけたと思いますが、一緒に生活してくれた人たちありがとうございました。

～仲が深まった林間学園～

林間学園を通して〇年〇組の仲がギュッと深まりました!!

帰りのバスまで笑いか絶えない3日間でした！

登山 肝試し キャンプ ファイヤー 星観測






上掲 2 作品はもちろん、その他のどの作品にも、それぞれの生徒の 3 年間の思い出がよく表現されていた。思い出のランキングをつけたことで、生徒個々人の心に占める大きさがわかり、なおかつどのような思いをもっていたのか推測できるようになっている。各場面は多少美化されている部分もあるが、本音に近いものであると推察される。思い出のひとつひとつが自分自身にとってどのような意味をもつのか再確認できたのではないだろうか。

また「教室」や「机」の絵図も活用したことにより、生徒たちは「集団の中の自分」に焦点をあて様々な読み解きをし、自分自身や仲間へのメッセージにつなげている。思い出ストーリーをつくることだけに終始すれば「書きっぱなし」の感があるが、「学校」という存在そのものへ意識を向けさせるきっかけになったと考えられる。

Ⅲ－ 2. 作品の相互評価

普段の読み合いでは、赤ペン・青ペンでそれぞれ「共感」「いいね」または「アドバイス」を書いてもらっている。しかし今回は、「寄り添ってあげる」ことを重視したため、コメントを書く人には「相手の 3 年間を受容するメッセージ」を書くよう指示した。クラスメートにコメントを依頼するときには、自分のことをわかってくれそうな人を選んでもいいということを伝えてある。また、誰に依頼してもいいということも伝えてある。コメントをつける人には、作品を見ながら下記用紙のコメント欄に記入してもらった。

コメント・ふりかえり用紙

年 組 番 名前 () ☆自分の作品を読んでもらって、コメントを書いてもらおう。 【コメント記入欄省略】 ☆今回の授業（思い出のアルバム作り・読み合い）を通じて学んだことはどんなことだろう。そして感想は？ 【ふりかえり記入欄省略】

上掲学習者 A・学習者 B の作品へのコメントを以下に載せておく。

学習者 A へのコメント

- 絵と色のぬり方がとてもきれいでまとまってよかった!!! ポスターの賞おめでとう! 部活で色々あったみたいだけど、三年間続けてよかったと思えてよかった。おつかれ様。+優しさが伝わる。Good.
- 絵、めちゃくちゃ上手だなあ…。うらやましい。「感謝を行動で…」というところ、良いと思いました。
- イラストがたくさんなので、場面が想像しやすかった。
- 体育祭、背が高いから、となりで一緒に応援したよね。覚えてる? あと、体育も楽しくやって、やさしい A ちゃんにたくさんたよっちゃった…お世話になりました。
- 色もつけていて、とてもわかりやすかった。センスがあつてすごい!! さすが美術部!! 高校でもこのセンスをいかしてがんばれ! 自分で描いたきゅうちゃんもかわいい。
- 3 年間の思い出が本みたい物語みたいにストーリー性があつて読んで楽しくなったし、すごいヨカッタ!!

学習者 B へのコメント

- 私こそありがとう!! いろんなことをやってきた B の思い出がたくさんわかってうれしい!! B の中だと部活が一番大切だということがよくわかる!!
- 体育祭の B はすごくかっこよかった! 女団長をやってくれてありがとう!
- たくさん色をつかっていてかわいい!! 3 年間つらいこともたのしいこともあったけど、のりこえてきた B のすがたが見えた!! かっこいいよおー!!
- 大きい役割をたくさん経験したからこそ、たくさんの感情があるんだね! マジで、かっこよかった!!
- クオリティーが高すぎー!! 3 年間たくさんの

思い出があったね。まじで感謝してま〜す笑。
高校に行っても色々頑張っ〜。そしてこれ
からもよろしく〜!!

生徒たちは自然に「すごいねえ」「がんばったね」
「そうそう」と声を出して、互いのがんばりをた
たえていた。自己開示したことがクラスメートに
認められることは、大きな安心感につながってい
く。コメントを書く人は、コメントをもらう人との
相互の関係性に配慮した記述を多くしていた。

Ⅲ－３．活動のふりかえり

相互評価コメントを読んだ後に、学習者 A・B
が「ふりかえり欄」に書いた内容を載せておく。

学習者 A のふりかえり

- ・みんなそれぞれちがう思い出があって、「そ
んなこともあったな。」とか、「そんなこと
があったの!？」という新しい発見ができて
よかったです。
- ・自分が思いつかないようなマス目の使い方
をしていて、そんな使い方もあるんだな、と
感心しました。
- ・「色がきれい」とか、「絵がうまい!」とか、「さ
すが美術部」とか、色々と言ってもらえて
とてもうれしかったし、がんばってよかつ
たなと思いました。
- ・みんな、ていねいにコメントを書いてくれ
てとてもうれしかったです。
- ・今、振り返ってみると、あっというまな 3 年
間の中でもたくさんの出来事があったのだ
なと、改めて思いました。

学習者 B のふりかえり

この授業をしたことによって、このみんなと
出会うことが出来たのは奇跡であって、感謝の
気持ちをもって生活しなければならないと思い
ました。みんながいたから今の自分がいると思
いました。みんなが自分を、成長させてくれた。
みんながいたから中学校生活が楽しかったとい
える。本当にありがとうと伝えたい。

紙幅の都合でここでは学習者 A・学習者 B の 2
例しか紹介できなかった。他の生徒たちの「ふり
かえり」には、次のような記述もあった。「同じ
ことでも、考えていたことが似ていたり、まっ
たく違っていたりした。」「意外と自分のはが
んばっていた。」「よくないことも成長のもと
になっている。」「他の人のがんばりがわか
る。」等々。

自分の考えを表現する（自己開示）→仲間とや
りとりする（相互評価）→さらに深まり・広がり
のある考えへ（ふりかえり）。このようなプロセ
スを繰り返していけば、「自己肯定すること」「仲
間を認めること」につながっていくのではないだ
ろうか。生徒の活動を観察していると、自分は支
え、支えられている、と気づき、仲間として磨き
合うような言動が徐々にできるようになってきて
いるように思われた。活動終了時には「もっと読
みたかった」「他のクラスのも読みたい」「全員の
作品を読みたい」といった声も聞かれた。互いに
承認し合う時間は、生徒たちにとって心地よいも
のであったようだった。

Ⅲ－４．教師間での情報共有

本実践には、各クラス担任の先生だけでなく、
スクールカウンセラー・養護教諭の先生も興味を
示してくれた。気になる生徒の作品に目を通し
たいとの申し出を受け、情報共有することとなっ
た。担任の先生方は学級生徒の全作品に目を通し
ていった。また、中学校においては部活動の占め
る役割も大きいため、部活顧問の先生にも見て
もらうことになった。

スクールカウンセラー・養護教諭の先生から頂
いたコメント（一部抜粋）を載せておく。

スクールカウンセラーからのコメント

受験を控えたこの時期に、3 年生にこのよう
なすばらしい取り組みをされたことに、深く感
銘を受けました。日本の子どもたちは他国に比
べて自己肯定感が低いといわれています。様々
な見解が述べられていますが、その中でも「互
いに認め合うことのできる機会が少ない」こと

が特に大きな要因ではないかと、私は感じています。〔中略〕私は仕事柄、生徒が苦しんでいる時に関わることが多いのですが、その中で「もう人を信じられない」「苦しんでいるのは自分だけだ」「自分なんか何をしてもだめだ」という言葉を聞くことが少なくありません。葛藤を乗り越えて「もう大丈夫」と言ってくれた後も、その生徒の様子が気になります。〔中略〕今回の作品から、生徒が学校生活の中で何がうれしかったのか、悔しかったのか、感謝しているのか、を具体的に知る、あるいは想像することができました。〔後略〕

養護教諭からのコメント

スマホ時代の子どもたちは決まった文句や分例を安易に多用し、「自分の言葉」を持たず、本心を表現する言葉が画一的になりがちですが、今回は与えられたものでなく、自身が選んだ実体験を通して感じたことを書き出すことで、「自分の言葉」で表現できているなあと感じました。〔中略〕低すぎる自尊心・高すぎる周囲への同調（逆もあり）で、バランスが取れずに苦しんでいる生徒が多い中、この授業を通して個を見つめ、周囲を感じて集団の中の自分を肯定的に感じることで、素敵な授業だったと思います。〔中略〕保健室では個で対応することが主ですが、この授業のように「出来事→その時の感情→周囲（関係者）の様子→その周囲の中での自分の在り方」を考えられるように話をすると、単独の個ではなく、集団の中の個として自分を見つめられると思い、参考になりたいと思います。

その他、各先生方からは次のような感想があげられた。「担任が感動し、生徒理解がすすみ、声掛けに変化が出てきた。」「本音が出るのは、安心できる学級に近づきつつあるのではないか。」「教室の人的環境づくりとして役立つ。」「学校生活が大きく反映されている。良いことだけではなく、悔しい・悲しいも残る。」「個々にとらえ方が違う。

同じ3年間でも違う。ランキングがとてもよい。」「生徒の本音が出てくることがすごい。…自分の言いたいことを表現できて、いいな。』

さらに、担任は作品だけでなく相互評価の内容にも着目していた。生徒同士のつながりを知るチャンスにもなったようだ。

IV. 考察と今後の課題

本実践では「3年間の思い出」をテーマとし、全国看図アプローチ研究会のオリジナルキャラクター「きゅうちゃん」という表現手段を借りて作品制作を行った。「きゅうちゃん」を媒介させることにより、作品を制作するだけでなく「自他へのメッセージ発信」も促進された。「きゅうちゃん」の読み取りを通して生徒たちは自分の心と向き合っていた。

普通、「作文」というと生徒たちはあからさまに嫌悪感を示す。筆者はそんな生徒たちに、「書ける」のだという思いをもてるところまで育ててほしいと願っていた。これまで様々な作文教材を取り上げ挑戦させてきたが、「楽しんで書く」までは到達しなかった。今回取り入れた題材では、楽しい・うれしいことばかりでなく、つらかったこと・悔しかったこと等が数多く表現されていたことも特徴的であった。また「看図作文」「看図アプローチ」の手法を取り入れると、担任クラスではないところでもアイスブレイクなしで授業することが可能になる。「看図作文」「看図アプローチ」の授業そのものがアイスブレイクになるのである。これは、筆者自身が体験したことから確認している。看図作文・看図アプローチは個人の成績や力量に関係なく取り組める手法でもある。「看図作文」「看図アプローチ」は、授業者も学習者も共に楽しみながら目標を達成できるツールである。1回だけの実施でも効果が大きいことがわかっているが、1年次から計画的に「書く」トレーニングを行えばより効果的な指導となる。本稿冒頭で「面接力・発想力・想像力・創造力・作文力・仲間力…をつけて、これまでの自分を自己肯定し、受験に向かっていくエネルギーをチャージし

よう！」というテーマを掲げたが、このテーマの実現に充分貢献できる実践になったように思う。

さらに、本実践は様々な場面に応用が可能である。まず、学級経営に応用できる。実際、実践を行う過程で、若手からベテランまでたくさんの教師と情報を共有することができた。収集された授業記録や成果物等は、教科や学年を超えて、学級づくりを考える大きな資源になった。教科・学年・学校という枠にとらわれず、目的に応じた工夫を加えることで様々な使えるだろう（例えば創造的思考力の育成、石田他,2019）。3年間の教育課程や教科の年間計画に取り入れることができたなら、作文指導にとどまらない幅広い学習効果を期待できる。それを実現するためには、生徒たちだけでなく、教師・学校も積極的に協同していく必要があるだろう。教師生活も終盤にさしかかる頃に協同の理念や研究者の先生方と出会えたことに、筆者は大きな喜びを感じている。今後も「肯定感を育て認め合う集団」を体現しつつ、助言を頂きながらすすんでいくことが課題と考える。

引用・参考文献

- 石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看图アプローチ—絵本づくり授業実践の報告—」『全国看图アプローチ研究会研究誌』1号 pp.2-15
- 鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看图作文の授業—創造的「読み書き」の理論と実践—』春風社
- 鹿内信善 2015 『改訂増補協同学習ツールのつくり方いかし方—看图アプローチで育てる学びの力—』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善編著 2010 『看图作文指導要領—「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン—』溪水社
- 鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち ● 看图作文レパートリー ●』ナカニシヤ出版

2020年1月28日受付

2020年2月11日査読終了受理